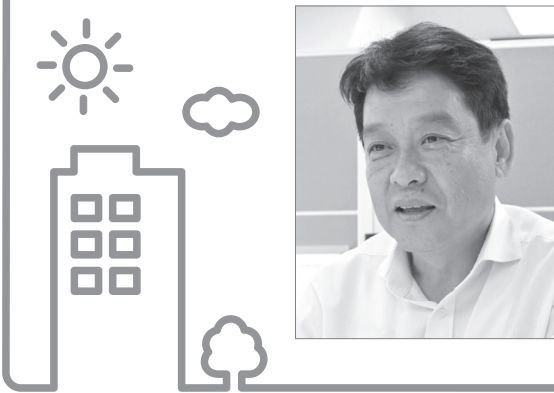


経営資料

No.193 会社訪問

代表取締役 宋 範龍 氏



KEI JAPAN 株式会社

会社プロフィール
代 表 者:代表取締役 宋 範龍 (Song Bum Young)
本 社:〒812-0015 埼玉県蕨市錦町3丁目8-20 サニーテラス司105
TEL:048-434-8234 FAX:048-434-8252
東京支社:〒162-0066 東京都新宿区市谷台町4丁目2 大鷹ビル4F
TEL:03-5341-4848 FAX:03-5341-4846
設 立:2007年(平成19年)
資 本 金:2,000万円
従 業 員:9名
事業内容: AC/DCモーター、分析機器、成形品、加工部品、消耗品の販売業、
電気、電子、機械の卸売業及び理化学、産業品、半導体部品等の
輸入、輸出業
U R L:https://keijapan.co.jp/

聞き手:富山裕明(広報委員長)、筒井紫乃(広報委員)、岡田康弘(編集長)、取材・撮影・編集:クリエイティブ・レイ(株)



韓国製モーター関連製品を中心に、ニーズに合わせたシステムを構築
末長く100年続く会社を目指す、輸出入の専門技術商社「KEI JAPAN」

御社の事業内容についてお聞かせください。

宋 弊社は主に韓国製を中心に、海外製の電気部品・電子部品・機械関連製品や部品を輸入し、日本国内で販売している輸入技術商社です。一部輸出も行っていますが、輸入をメインで行っています。

取扱い製品のメインはモーター関連製品です。大規模な出力モーターから電化製品で使用するような小出力のモーターまで規模は様々です。さらにモーターに関連する制御機器や各種部品も提供しています。

例えば、高温層の測定ができるシステムを望まれるお客様がいらっしゃる場合、高温下で動くポンプとポンプを駆動させるモーターと高温域を制御する基盤などの制御機器、それをオペレーションするソフトなどが必要になります。弊社は、それらをお客様のご要望に応じてカスタマイズし、トータルでご提供できる体制を備えています。

弊社は韓国のモーターメーカーと連携していて、売上の約70%がモーター製品関連です。受注のうち9割は、お客様のご要望に応じたオーダーメイドに対応しています。既製品の販売は1割弱ですが、今後は伸ばしていきたいと考えています。

ポンプを駆動する大小さまざまなモーター、制御システムなど関連製品に強みがあるのですね。

宋 そのとおりです。長年お取引をしているお客様には、真空ポンプや油圧ポンプ、ドライ式ポンプを提供する大手メーカーがごぞいます。そのシステムの中で、ポンプを駆動させるモーターなどに弊社が提供する製品をお使いいただいています。

モーターは、例えば発電所で使われるような13kwレベルの巨大なものあれば、小型で400W、さらに小型の200Wレベルのもの、さらに小規模な冷蔵庫などの家電に使うようなものも取り扱っておりますが、一番取り扱いが多いのは200Wレベルのものです。

そしてカスタマイズはシステムや制御、ソフトウェアなどだけでなく、細かい成型関連まで対応ができます。例えば、シリコンに特殊な薬剤を使って検査をするようなシステムをお望みの場合は、適した樹脂を使って新たに金型を作り、求める装置を成形したりもします。

その他の例で言うと、遠心分離機に使うモーターや、さらには半導体の工場や検査機器関連なども取り扱いがごぞいます。

経営資料

KEI JAPAN 主な取扱商品



インダクションモーター



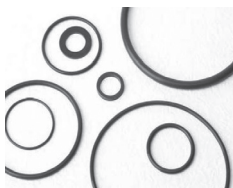
電子式スイッチ



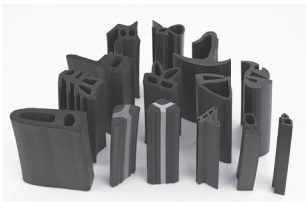
可変周波数ドライブ



コンデンサー



O-RING



ゴム



溶接ペローズ



誘導電動機



チューブ型消火装置

日本製に比べて、韓国製モーターが強みとしている点をお聞かせください。

宋 これまで日本製のモーターは非常に高い技術と信頼を得てきましたが、今では国内で生産を行っていない場合がほとんどです。それは各社が生産拠点を海外に移してきてから時が経ち、アジアでは韓国・台湾のメーカーが、日本製とほぼ同じような技術を持っているといっても過言ではないと市場では言われています。

宋社長は物腰やわらかで、柔軟性に富まれているという印象を受けます。創業当時のことをお聞かせください。

宋 日本に来たのは1996(平成8)年25歳の時でした。私は韓国の工業高校を卒業した後、韓国で就職、その後は自営業を営んでいました。韓国では、それまでの勉強不足がこれから弱点になってしまっていたので、日本語を学ぶ中で日本を知る必要性を感じました。そこで日本の大学に入学して勉強し、その後31歳で韓国系の日本法人に就職しました。

最初は社員4人の小さな会社でした。そこでモーターと出会ったのです。会社では営業担当ではなく、主に入出荷の梱包手伝いなどをしていたのですが、そうして2年間、重いモーターを汗をかきながら、あっちへこっちへと運んでいたのですが、その時に流す汗が私には心地よく感じられ、徐々にモーターに愛着が湧いてきました。その後、営業担当の上司が突然辞めてしまい、私が営業担当にも

抜擢させられていました。

この会社に勤めていた時に嬉しい思い出があります。それ以前に、韓国のあるモーターメーカーが日本に営業していたものの結局契約に至ることはなく、私たちの会社は再チャレンジできたのです。2年間かけて営業を重ねて契約できた時は、本当に嬉しかったです。初の契約もモーターでした、言わばモーターは私の助け舟になってくれたように思っています。

その後、今の会社を起業されるわけですね。

宋 2007年まで勤めていた会社が撤退したことを受けて、2007(平成19)年に会社を立ち上げました。36歳の時、KEI JAPAN株式会社という名前で創業しました。

会社に勤めていた頃と、独立してからの厳しさの違いは痛感しました。会社員時代に信頼関係ができていたと思い込んでいた仲間や相手も、私が個人事業主となっからは、また別だということを感じました。

振り返るとKEI JAPANの創業から18年、前社の営業マン時代から数えると25年お付き合いいただいているお客様は、今も一番のお取引先となっています。

とにかく日本で起業してから18年が経ち、設立時から支え応援してくださいました皆様に感謝するばかりです。今回、科学機器協会に加入したことを昔からの知人、友人の方々に伝えると、「そういう会社に成長したのですね…」と、共に喜んでいただけるお言葉をいただきました。

経営資料

創業時の社員は何人だったのでしょうか。

宋 創業は私を含めて2人でしたが、1年後には私1人となり、妻が応援してくれて2人で頑張ってきました。会社の名前は、その頃に生まれた長女の「知慶」という名前に由来しています。名に使った慶の字は「慶^{ちぎょう}ぶ」と読みますが、皆が喜ぶ会社にしようという思いを込めてKEI JAPANという社名にしました。

今も本社住所である埼玉県の蕨市から始めました。設立当時は知慶が1歳前後ですので、事務所にベビーベッドを置いて、オムツを替え子育てしながら仕事をしていました。私はその時から、妻に怒られっぱなしです(笑)。

現在、社員は9人になりました。2年前に新宿に東京支店を設けて、家族の生活拠点も新宿に移しました。埼玉県蕨の本社は現在、製品・部品の物流倉庫として、また、お客様対応の拠点として、社員数名を勤務させて稼働しています。

私事ですが、長女が生まれた3年後に長男が生まれ、彼が4歳になった頃に突然「おねえちゃんの会社はあるのに、ぼくの会社はないの？」ということを行いました。長女の名が会社の由来と聞いてそう思ったのでしょう。その時は、「じゃあ、自分の名前がついた会社は、自分で作るといいね…」と話しました(笑)。

これまで経営者として、喜びや困難な出来事がございましたらお聞かせください。

宋 喜びを感じた印象的な思い出は、2011年の東日本大震災です。私は震災の直前に韓国への海外出張中でしたので、数日間も空港が閉鎖して日本に帰国できなかったのです。ですので、震災後の会社の運営や対応は、残っていた社員の裁量に頼るしかありませんでした。

そんな中で、社員はお客様が求めるものをとにかく提供し続けました。私は日本に戻った後に現実を知って「ここまでしたの？」と状況を聞くと、その社員は「自分たちがやれることはこれしかない」ということで必死にやってくれていたのです。その行動は賃金などの面から見たら、ここまで対処してくれたのだという嬉しい思いがこみあげました。ましてや震災直後からは、韓国を含めて多くの人たちが母国へ帰ったことがありましたから、そんな中で、社員は残って一生懸命やってくれたのです。

その指揮をとったリーダーは今も在籍していますが、実

はしょっちゅう対立しているのですが、憎めないところがあり、いつも一生懸命で、とてもありがたい存在です(笑)。この震災の時に、皆さんのために何ができるかと一生懸命奮闘したことは、その後、弊社が発展する方向性を見出すためにも、大きな出来事だったと思います。

また、2020年1月新型コロナウイルスで世の中の動きがストップした時は、とても辛かったです。しかもその頃、結構な覚悟をして設備投資に資金を投入し、前金を受け取ることもせずに、多くの製品を納入していました。その後、そのお金は回収できておりません。

ただし、その辛い時期を乗り越えられた時に、「私たちの会社は、今後100年存続するために何を目指して、何を提供していくべきか」ということをしっかりと固められたことがあります。それまで確かに良質な製品を提供してきましたが、それだけではなくて、物と共に「知識を提供し、磨き続けていかねばならない」ということが定まったのです。それが出来てこそ、お客様に信頼性を感じていただけて、100年続く企業になれるのだと思いました。その目標は、コロナの辛い時期があったからこそ、生まれたものだと思います。

実はそのおかげで、『Konavi(コナビ)』(<https://www.konavi.jp>)という、製造業の部品・材料通販サイトが立ち上げられました。“コナビ”は“コリアンナビゲーション”という略で、韓国の中小企業で生産された優秀な製品、部品、加工品、材料及び特殊な技術で開発され世の中に雄一な製品として案内できる商品を紹介するECサイトです。関連する韓国でのビジネスや市場の情報及び企業の文化を発信しています。

御社の経営理念をお聞かせください。

宋 まずはKEIという社名を「慶^{よろこ}ぶ」からつけたように、皆さまが喜ぶことができる会社を作ろうということです。そして、私はいずれ寿命がきますが、末長く次の世代に繋げられるような100年続く会社にしたいという想いが、自分の中であって弊社の理念となっています。また、子どもたちに私の会社を継いでもらうという思いは特にありません。自分が好きなこと、楽しいこと、喜ぶことができることをやって欲しいだけです。



御社の現在の課題と今後の目標をお聞かせください。

宋 今後の課題は「人材」です。数年後には中国市場に展開したいとの目標があります。そのためにも、これからは人材の育成は大きな課題です。

人材については、私たち経営者側がどのような営業、どのような投資、どのような資金調達をすべきか、将来に向けてのビジョンを持つ社員が育つための組織づくりをしなければいけないと思っています。過去を振り返ると、資金に余裕があって展開したいプランがあるものの、人材がいないという現実があったり、逆に有能で優秀な人がいるのに仕事に十分でないといったことがありました。その良いバランスを維持すること、そして社員1人ひとりにとって、それぞれが喜べること、楽しさを感じられることが大切かと思っています。

今後2～3年後には、中国市場にも進出したいと考えています。ただ、進出すればいいということではなく、持続的に会社としてやっていけるという思いを持った人と一緒に続けていかなければいけないと思っています。

ここで、開発本部主査・松井さまにも同席いただきました。宋社長との出会いや経緯についてお聞かせください。

松井 私は元々ゴム業界で長く仕事をしておりました。17年前、韓国でのゴム事業の展開を模索している時に、宋社長の会社で専務をされていた方の仲立ちで知り合いました。現在70代半ばを過ぎましたが、宋社長と性格的にも意気投合してから一緒にやっており、これからKEI JAPANでゴム事業を広げたいと考えています。



開発本部 松井様

宋 私はたくさんの方々に応援いただけてきましたが、特に松井さんや、先輩方が持つ能力やノウハウは、とてもハイレベルだと敬服しています。実は弊社は周りから“お年寄りばかりいる会社だなあ”という噂を聞く事もありますが…(笑)これまで、たくさんの方の豪快な先輩方とお酒を飲んで、色んなお話を聞かせていただき、嬉しい交流と勉

強をさせていただきながら、ここまで来ました。

ここからは、宋社長の個人的なことを伺わせてください。

尊敬する人物はいらっしゃいますか。

宋 若い頃は、韓国マンガの主人公に憧れたこともありましたが、実在の人物で尊敬するのは「母親」です。私が来日した1997年に亡くなったのですが、いつも家族に対し深い愛情を持って育ててくれました。実は、父親は戦争に行ったトラウマがあり、時折心身に不調をきたすことがありました。自暴自棄になったことはないのですが、飛行機の爆音が聞こえると強い恐怖を感じてしまうことがありました。そういった境遇の中で、母親が愛情を込めて、私たち兄弟を強く正しく育ててくれたおかげで、兄弟はとても仲が良く、それぞれの場で頑張っております。

余暇や休日に楽しんでいる趣味などはございますか。

宋 昔は「仕事が趣味」だと思い込んでいました。元々楽しく仕事をするのが、私のモットーだったからです。しかしある時、髪の毛がすごく抜けてきて、これは仕事のストレスをため込んでいたことに気づかされました。その時から、心を落ち着かせるために「散歩」をするようになりました。出張の時にもスニーカーを持参して、早朝にホテルの周りを散歩します。散歩を始めてからは、周囲がよく見えて体も気持ちも落ち着きます。

他には、料理が好きで週末に家族にふるまいます。包丁で食材を刻む時のリズム音が心を落ち着かせてくれるように感じます。料理は1週間分をまとめて作って冷蔵庫に入れて置きます。今後、私の料理回数が減るかどうかは、妻や子の口に合うか次第ですね(笑)。今週はキンパ(韓国海苔巻き)を作りました。

最後に、協会へのご意見やご要望があればお願いします。

宋 これまで応援をいただいた皆さんには、感謝の想いを抱いています。まだ私たちの会社は従業員を含めて未熟なところがあるので、科学機器協会が行なっている「新人教育研修セミナー」や「科学機器基礎講座」などで色々なことを学べるとありがたいです。是非、新人社員を参加させていただきたいと思います。